



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

口に纏わる話

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

以前、本紙の巻頭言で「歯に纏わる話」を掲載したところ歯科医師会の多くの先生や当院通院中の患者さんからたいへん好評でしたので、今回は「口に纏わる話」を掲載させていただきます。

さて私たち、歯科医師は歯や歯周組織を含めお口全体のキュア(Cure—いわゆる治療)に長年力を注いできました。しかし21世紀を前にした頃からお口全体のケア(Care—いわゆる管理や予防、病気の進行を抑えること)に力を注ぐことに転換しました。さらにお口の機能にも着目し、現在では機能も含めたお口全体の健康—私の好きな語呂合わせの「健口」—を患者さんに提供することを目指しています。さてこの口に関するあるいは口を含む金言、諺は古今東西を通じて数多くあります。

それでは、ほんのちょっとご紹介しましょう。

『口は災いの元。』これは誰でも経験がありますよね。『禍は口から』という似た諺もあります。

『口も八丁手も八丁。』言うことも言うが、やることもやるという人を例えた諺ですが、この諺とは逆の意味の諺がいくつかあります。『口自慢の仕事下手。』『能なしの口たたき』このような歯医者には風上にも置けませんね。

『鶏口となるも牛後となるなかれ。』(「鶏口」を「鶏頭」、「牛後」を「牛尾」とするのは誤りだそうです。)『人の口に戸は立てられぬ。』(世間のうわさ話は、防ぎようがないということのたとえだそうです。)この諺に似たものには『口より出せば世間』(いったん口をすべらせると、どんな秘密も世間に発表したのと同じであるという意味。)『民の口を防ぐは水を防ぐよりも甚だし。』(人民の言論を抑

えることは、川の氾濫を止めるよりも難しい) お互いに気をつけましょう。『口に蜜あり腹に剣あり。』同性でも異性でもこんな人とは付き合いたくないですね。

『良薬は口に苦し。』現在は薬剤師が矯味、矯臭など味や臭いを変え、飲みやすくする工夫をしています。

『口では大坂(現在の大阪)の城も建つ。』歴史が感じられる諺です。"Keep your mouth shut and your eyes open." (沈黙を守ってよく観察せよ。) 臨床実習生には是非守って欲しい西洋の金言です。

『長口上は欠伸(あくび)の種』長たらしい話は、聞き手を飽きさせるもとであるという諺ですが、皆様もそろそろ飽きてきましたか? 本稿が長すぎて『異口同音』に、『開いた口が塞がらない。』と困りますので、最後に『目元千両口元万両』の一例をお見せして本稿を終わらせましょう。



当病院が誇る衛生士さんの美しい口元万両

口腔リハビリテーション科紹介

昭和大学歯科病院口腔リハビリテーション科では現在教員、大学院生合わせて13名の歯科医師と2名の言語聴覚士が勤務しています。摂食嚥下障害、言語障害、閉塞性睡眠時無呼吸症候群およびその他の口腔機能障害や異常習癖など口腔顎顔面の機能障害の診断、治療を行っています。

特徴としては、摂食嚥下障害から言語障害まで様々な口腔の機能障害に幅広く対応し、最新の診断、治療を行うとともに、言語聴覚士、口腔筋機能療法士、歯科衛生士などの専門スタッフと歯科医師がいつでも一緒に診療する体制が整っている点です。摂食嚥下障害をはじめとする口腔機能障害への対応は歯科医師のみで行うことは困難です。そのため歯科医師のみでなく言語聴覚士、歯科衛生士など多職種の間がそれぞれの専門を最大限に生かしながら患者さんに適切な指導、治療を行うことが最も重要となります。また、当科では患者さんの正しい医療介護情報を患者さんに携わる医療者のみでなく、患者さんのご家族や介護職員など患者さんの医療や介護に関わる全ての人達と共有するという事に力を入れています。具体的には当科では嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査という嚥下障害の検査時に患者さんの表情や、食品摂取時の姿勢とともにその

時の呼吸音や嚥下音を検査時画像と同時に記録し、検査時の状況を患者さんの日常生活に正確にフィードバックできるように、これら詳細な情報を提供しています。また、歯科医院や他の病院などから患者さんをご紹介いただいた場合には紹介元に対しても同様の情報提供を行っております。わたしどもの行う医療そしてその情報提供を求め、北は北海道から南は九州まで日本全国から患者さんが紹介来院されています。さらに大森、世田谷をはじめとする地域歯科医師会の先生方とも密な連携をとり、歯科病院の外来診療のみではなく患者さんのご自宅や病院、介護高齢者施設への往診を行い、通院が困難な方にも対応しておりますので、ご希望などがございます場合にはご相談いただければと存じます。

ムセる、のどに引っかかるなど飲み込みに関してお困りの方、ろれつが回らない、言葉がうまくしゃべれないなど言葉の問題でお悩みの方、睡眠時の無呼吸を指摘されている方は是非一度当科にご相談ください。

口腔リハビリテーション科 助教 伊原 良明



当科における嚥下造影検査の画像



口腔リハビリテーション科スタッフ

歯科医師紹介:誰でも乳歯・永久歯は、自然に生えてくるとは思っていませんか？

小児歯科 講師 島田 幸恵

私の子ども時代は齲蝕の洪水の時期だったので、近所の歯科医院では予約制度はなく待合室に患者さんがあふれていました。来院順に治療するのでいつ診察が始まるかわからないので、子ども達は、歯医者さんの広い庭でかくれんぼなどをして遊んでいました。その時、庭の隅にバケツに一杯ずつの義歯と抜去歯を発見しました。周囲に義歯を使用している人がいなかったため、腰が抜けそうなくらい驚き、「歯医者さんは人間の口の中を集めて治療している魔法使いだ！」と思って一時期歯科医院を受診するのが怖くなったものです。そんな体験をすっかり忘れ、歯学部に入學し、全部床義歯(総入れ歯)の実習で、急にフラッシュバックし、あれは、義歯や、抜去歯で医療廃棄物であったと理解に至ったわけです。幼稚園時代に歯科と初めて出会った私は、今では小児歯科を担当しています。小児歯科では、「白い」イコール「おばけ」を連想させるので、開院当初から白い白衣を着てきませんでした。スクラブ型にする時、お子さんに親しみやすいようにミッフィー柄の白衣を着ることになりました。ミッフィーの白衣を着ていたら、小児歯科医ですのでよろしくお願いします。

小児歯科は他の歯科と違い、お子さんの成長・発育を考慮しながら、虫歯・歯肉炎の治療、指しゃぶりなどの習癖で歯並びが悪くなった子供の訓練、歯の萌出遅延などの治療を行っています。

皆さんは、ある年齢がくると、乳歯・永久歯は自然に萌出してくるものだと思っていませんか？基本的に暦年齢と歯の萌出年齢は一致しているものなのですが、何らかの異常がある場合、歯は生えてこず、埋まってしまったり、隣の歯の根っこを吸収してしまったりすることがあります。永久歯が生える時期は、小学校以降なので、保護者の方々もあまりお子さんの口の中を見なくなる時期であること、また学校歯科健康診断を受けて問題がなければ、歯の萌出も問題がないと保護者の方々も錯

覚してしまうのです。また、学童期になると、お子さんは塾や習い事で忙しいので、虫歯がないと、つい歯科医院への受診率が減ってきます。しかし、学校歯科健康診断では、虫歯、歯肉炎、歯列不正などを主に診ていて、歯の萌出遅延の診査項目はないため発見が遅れることがしばしばあります。歯の萌出遅延で、隣の歯を吸収したとしても、痛みを伴わないので、silent disease(静かな病気)と言われ、増々発見が遅れる一因になっています。思春期のお子さんが永久歯の前歯を抜かねばならないことが、心理面でも大きなストレスになってしまいます。私は、このような不幸なことが少なくなるように学校歯科健康診断でも使えるようなスクリーニング検査を研究しています。しかし、学校歯科健康診断に反映されるには時間がかかるので、小児専門の小児歯科に定期的に診査をうけ、必要があれば、精密検査、早期の治療を受けれるようにしていくことをお勧めいたします。早期発見・早期治療ができれば、簡単に治療することができますが、発見が遅れれば治療は難しくなり、萌出遅延していた歯や隣在歯も抜歯しなければならない事もあります。歯の萌出遅延だけでなく定期的な診査を通じ、小児期に口腔の健康の重要性をお子様自身も理解し、口腔衛生管理を自律できるよう育成し、将来高齢になっても口腔健康維持が、お身体全体の健康維持に繋がるようにしていきたいと思っています。ぜひ、虫歯がなくてもお気軽に小児歯科に来院していただき、虫歯や歯肉炎の予防や歯が萌出遅延しないように一緒に頑張っていきたいと思いませんか？



研修医との診療風景

第8回 口腔ケアセンター周術期講習会が開催されました

第8回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が2月3日(水)午後8～9時に本学1号館7階講堂で開催されました。講師は医学部内科学講座臨床感染症学部門教授の二木芳人先生で、「歯科医が知っておかなければならない感染症」という演題で、分かり易く講義いただきました。学内から58名、歯科医師会から28名参加いただき、講演後も活発な意見交換が行われました。第9回は10月19日(水)午後8時～同場所にて開催致します。

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司



最新の情報をお話する二木先生

事務課からのお知らせ

1階の歯科放射線科横、歯磨きコーナーの前に図書コーナーを設置致しております。

待ち時間等にご利用頂ければと思います。

読み終わりましたらやさしく、戻して頂ければ、うれしいです。随時、本の追加等行ってまいります。



以前より、出会い頭に、「おっと危ない！」なんて事が度々ありました。

これからは、ちょっと上のミラーで安全を確認して頂き、通行してみてください。

事務課管理係



編集後記

巻頭言に引き続きお口の諺を続けます。『匙(さじ)の先より口先の先。』患者のごきげん取りはうまいが、治療の技術は下手なやぶ医者をした諺で、こんな歯医者にはいません。そして私の好きな諺は『開いた口へ牡丹餅。』棚から牡丹餅と同意ですね。ついでに口とは無関係ですが、私の座右の銘は『果報は寝て待て。』『人に厳しく自分に甘く。』でしようか。

こんな私を支えて下さる医局員、コメディカルは私の宝物です。見捨てられないように私なりに今度とも頑張りたいと思います。

